

株 主 各 位

東京都渋谷区円山町3番6号
株式会社フルスピード
代表取締役社長 友松 功一

第19回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第19回定時株主総会を下記により開催致しますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面により議決権を行使することができませんので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、2019年7月23日（火曜日）午後7時までには到着するようにご返送くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 2019年7月24日（水曜日）午前10時
 2. 場 所 東京都渋谷区道玄坂一丁目12番2号 渋谷マークシティ内
渋谷エクセルホテル東急6階 プラネッツルーム
 3. 目的事項
報告事項
 1. 第19期（2018年5月1日から2019年4月30日まで）事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第19期（2018年5月1日から2019年4月30日まで）計算書類報告の件
- 決 議 事 項
- | | |
|-------|-------------|
| 第1号議案 | 取締役8名選任の件 |
| 第2号議案 | 補欠監査役1名選任の件 |

以 上

◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

◎本招集ご通知に添付すべき書類のうち、「連結注記表」及び「個別注記表」として表示すべき事項につきましては、法令及び当社定款第14条の規定に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト（アドレス<http://www.fullspeed.co.jp/>）に掲載しておりますので、本株主総会招集ご通知の提供書面には記載しておりません。

なお、監査役が監査報告書を、会計監査人が会計監査報告書をそれぞれ作成するに際して監査した連結計算書類及び計算書類には、本提供書面記載のものほか、この「連結注記表」及び「個別注記表」として表示すべき事項も含まれております。

◎なお、株主総会参考書類並びに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（アドレス<http://www.fullspeed.co.jp/>）に掲載させていただきます。

◎本総会の結果は上記当社ウェブサイトに掲載させていただく予定です。

本年より、株主総会にご出席の株主様へのお土産は取り止めさせていただきます。
何卒ご理解のほどお願い申し上げます。

(提供書面)

事業報告

(2018年5月1日から
2019年4月30日まで)

I. 企業集団の現況に関する事項

1. 当事業年度の事業の状況

(1) 事業の経過及び成果

＜当連結会計年度の経営成績＞

当連結会計年度における我が国の経済は、政府の経済・金融政策などを背景に、企業収益や雇用・所得環境の改善により個人消費が持ち直し、総じて緩やかな回復基調が続いている一方で、先行きについては、米中の貿易摩擦や欧州経済の不安感など、世界経済の不透明な状況が続いています。

当社グループの主たる事業領域である国内インターネット広告市場におきましては、平成2018年には前年比16.5%増の約1兆7千589億円（出所：株式会社電通「2018年 日本の広告費」）となり高い成長を示しました。

また、動画メディアの台頭に伴う動画広告市場の伸長や、デバイスの多様化に加え、ソーシャル・メディアの普及、大容量データを処理する広告関連技術（アド・テクノロジー）を活用したプラットフォームの開発・高度化が加速する等、インターネット広告市場においては、広告主のターゲットとするユーザーに対し、適正にアプローチできる広告サービスが期待されております。

このような事業環境の下、当社グループは、テクノロジー & マーケティングカンパニーをスローガンに掲げ、インターネットマーケティング事業や、「ADMATRIX DSP」、「afb」を中心とするアドテクノロジー事業の展開を強化しております。一方で、当社グループのコアアセットである、日本国内で蓄積されたマーケティングやテクノロジー基盤開発を活用した、戦略ドメインである”ヘルスケア”、”BtoB”、”クロスボーダー”領域における経営資源の積極活用を実施して参りました。

以上により、当連結会計年度における売上高は20,566,911千円（前期比8%増）、営業利益1,247,916千円（前期比7.4%減）、経常利益1,190,043千円（前期比11.3%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は568,436千円（前期比13.9%増）となりました。

事業の区分別の営業概況は次の通りです。

<インターネットマーケティング事業>

「コンサルティング力×伴走力×信頼性×独自素材」を軸に中堅企業No. 1のマーケティングパートナーを目指し、サービス拡販に取り組んでまいりました。また、ソーシャルメディアマーケティング*1、リスティング広告*2、コンテンツマーケティング*3、アフィリエイト広告*4などの各種サービスの拡販に取り組む一方で、戦略ドメインとして設定している”ヘルスケア” 関連領域や”クロスボーダー” 領域での更なる専門性・優位性を持つべく、展開を強化してまいりました。

以上の結果、当事業の売上高は8,903,873千円（前期比8.2%増）となりました。

<アドテクノロジー事業>

アドテクノロジー事業においては、B to Bマーケティング支援に強みを有するDSP*5「ADMATRIX DSP」を自社ブランドで展開し、外部企業との積極的なアライアンスによるデータ連携等に伴い、競合との差別化を実現し、顧客満足度向上に取り組んでまいりました。また、B to Bマーケティング領域は注目されている市場であり、更なる差別化を実現し、より優位的なポジションを確保すべく推進して参りました。

子会社である株式会社フォーイトにおいては、ASP*6として当社が自社開発したアフィリエイトプラットフォーム『afb』につきまして、プラットフォーム等の市場環境は変化に対応することに一定期間の時間が要したものの、市場において確固たるポジションの獲得に至っております。今後は中長期目線でのアジア展開を加速し、将来的にはASEAN、No. 1のパフォーマスマーケティング事業になるべく積極的な事業展開を推進致します。

以上の結果、当事業の売上高は13,875,472千円（前期比6.7%増）となりました。

<その他>

その他の区分には、情報メディアサイトの運営、広告ソリューションにおいて付随して発生するWEBサイト、バナー、及びLP制作等が含まれており、売上高は593,864千円（前期比53.4%増）となりました。

- *1 ソーシャルメディアマーケティング : ソーシャルメディア上での情報発信により、人々の繋がりを通じて拡散されるマーケティング手法。
- *2 リスティング広告 : 検索したキーワードに応じて、検索エンジンの検索結果のページに設定された広告枠に表示されるテキスト広告。
- *3 コンテンツマーケティング : 自社Webサイト等への訪問者を増やしたい顧客に対して、コンテンツの制作/配信をはじめとする各種インターネット広告手法を用いて課題解決するサービス。

- *4 アフィリエイト広告 : Webサイトやブログ等が企業サイトへバナーやテキスト広告を張り、閲覧者がその広告を経由して当該企業のサイトで会員登録したり商品を購入したりすると、サイトの運営者に報酬が支払われるという成果報酬型の広告手法。
- *5 DSP (Demand Side Platform) : 広告主サイドの広告効果の最大化のため、広告主サイドが広告出稿の際に使用する広告配信プラットフォーム
- *6 ASP (アフィリエイト・サービス・プロバイダー) : 広告主と自社サイトで広告を掲載したい企業及び個人を仲介する役割を担う事業者。

(2) 設備投資の状況

当連結会計年度において実施致しました設備投資の総額は99,598千円となりました。その主な内訳は次のとおりであります。

アドテクノロジー事業におけるシステム構築等に係る固定資産の取得
26,851千円

(3) 資金調達の状況

当連結会計年度中に、金融機関からの長期借入金及びその他の増資、社債発行等による資金調達は行っておりません。

(4) 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況

該当事項はありません。

(5) 他の会社の事業の譲受けの状況

当社は、2019年2月13日開催の取締役会において、株式会社FAVOより情報メディア事業等を譲り受けることを決議し、2019年2月15日付で事業譲渡契約を締結致し、同日付で当該事業譲渡契約に基づき、情報メディア事業等を取得致しました。

(6) 吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

該当事項はありません。

(7) 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権の取得又は処分の状況

当社の子会社の株式会社フォアイトの、持分法適用関連会社である株式会社GENTRICH（旧株式会社common）は重要性が増したことにより、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

また、当連結会計年度において、福藝特股份有限公司を設立したため、連結の範囲に含めております。

2. 直前3事業年度の財産及び損益の状況

(1) 企業集団の財産及び損益の状況

区分	第 16 期 (2016年4月期)	第 17 期 (2017年4月期)	第 18 期 (2018年4月期)	第 19 期 (当連結会計年度) (2019年4月期)
売上高(千円)	15,061,854	18,065,912	19,040,436	20,566,911
経常利益(千円)	932,365	736,226	1,341,497	1,190,043
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	734,914	512,377	498,883	568,436
1株当たり当期純利益	47円20銭	32円91銭	32円04銭	36円51銭
純資産(千円)	2,142,787	2,642,378	3,067,830	3,641,745
総資産(千円)	5,202,936	5,790,701	6,384,852	6,857,489
1株当たり純資産額	137円61銭	169円70銭	196円69銭	233円31銭

- (注) 1. 1株当たり当期純利益は期中平均発行済株式数により算出しております。
 2. 1株当たり純資産額は期末発行済株式数により算出しております。

(2) 当社の財産及び損益の状況

区分	第 16 期 (2016年 4 月期)	第 17 期 (2017年 4 月期)	第 18 期 (2018年 4 月期)	第 19 期 (当事業年度) (2019年 4 月期)
売 上 高(千円)	8,523,189	9,202,823	9,149,743	9,378,757
経 常 利 益(千円)	174,861	138,859	217,798	743,646
当 期 純 利 益 又 は(千円) 当期純損失(△)	355,419	326,783	△143,045	709,498
1 株 当 た り 当 期 純 利 益 又 は 1 株 当 た り 当 期 純 損 失 (△)	22円83銭	20円99銭	△9円19銭	45円57銭
純 資 産(千円)	974,890	1,286,151	1,143,134	1,852,576
総 資 産(千円)	3,034,905	3,125,153	3,261,617	3,787,428
1 株 当 た り 純 資 産 額	62円61銭	82円60銭	73円41銭	118円98銭

- (注) 1. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失は期中平均発行済株式数により算出しております。
2. 1株当たり純資産額は期末発行済株式数により算出しております。

3. 重要な親会社及び子会社の記載事項

(1) 親会社の状況

当社の親会社はフリービット株式会社で、同社は当社の株式8,870,400株（議決権比率56.97%）を有しております。当社は親会社よりDSP広告入札システムのサービス提供及び資金の借入等並びに債務保証を受け、親会社にはサイト制作・リスティング広告等の提供・販売を行っております。

サービス提供及び借入等については、価格及び取引条件並びに借入金利が市場実勢を勘案して他の取引条件と同等の水準となるよう検討し決定しております。またサービスの販売等については市場価格、総原価等を勘案して当社希望価格を提示し、協議により決定しております。

当社取締役会は、このような取引条件を把握し、当社グループの利益を害するものではないことを確認したうえで、取引ごとにその適正性・妥当性を判断しております。

(2) 重要な子会社の状況

会社名	資本金	当社の議決権比率	主要な事業内容
株式会社フォーイト	10百万円	100.00%	アドネットワーク事業
株式会社クライド	10百万円	100.00%	アドネットワーク事業

4. 対処すべき課題

当社グループは、以下の6点を主な対処すべき課題として取り組んでおります。

(1) 競争優位性の強化

当社グループは、「ADMATRIX DSP」、「afb」を中心とするアドテクノロジー事業、およびインターネットマーケティング事業を展開しており、サービス内容の差別化強化そして競争優位性の確立が当社グループの発展に不可欠であると認識しております。

そのため、当社グループアセットの活用と外部企業との積極的な事業提携を実現していく方針であります。

また、広告クリーン化への取り組みは重要であると認識し、中長期視点にたち、積極的に投資・取組みを強化してまいります。

(2) 将来の収益の柱となる新規事業の創出

当社グループは、ヘルスケア関連領域、B to B 関連領域、クロスボーダー関連領域を戦略ドメインと設定し、新規事業を継続的に創造・拡大することに努めてまいります。将来の収益の柱を創出するために、M&Aおよび事業提携の推進は重要であると考えており、積極的に取り組む方針であります。

(3) 技術力の更なる強化

インターネット業界の絶え間ない技術革新により、新たなサービスや競合他社が続々と現れるなかで、他社とのサービスの差別化、競争優位性を確保するために、迅速な開発体制の構築が不可欠となります。このような事業環境のもとで、当社グループが継続的に事業を拡大していくためには、社内エンジニアの技術向上、社外からの優秀なエンジニアの採用が重要だと考えております。

当社グループは、最先端の技術動向のキャッチアップと技術力の向上を図り、また海外オフショア開発拠点として設立したFULLSPEED TECHNOLOGIES INC.をさらなる開発基盤として強化することにより、開発力の向上を図ってまいります。

(4) アジア・ASEAN地域における事業の拡大

当社グループの強みである、テクノロジーおよび国内で蓄積したマーケティングノウハウを活かし、アジア・ASEAN地域における事業拡大を強化してまいります。中長期的には、現地企業向けの事業展開を実施し、ASEAN No.1のポジションを実現することが重要だと認識しております。また現在は、海外展開の一環としてフィリピン・セブ島にて、オフショア開発拠点を有しております。

(5) 人材の育成・教育

当社グループは、今後の更なる事業拡大を実現するため、必要な人材を十分に確保していくことおよび組織体制の強化が重要であると考えております。そのために、高い専門性を有する人材や管理職者など、幅広いポジションにおける採用活動の積極的な実施による人材獲得に注力してまいります。ならびに人材育成の体勢も強化し、能力・実績主義の報酬体系の実施、教育研修制度の充実、業務の合理化、外部ノウハウの活用など、積極的に取り組んでまいります。

(6) 内部管理体制の強化とコーポレート・ガバナンスの充実

当社グループは、持続的な成長と企業価値の向上のため、内部管理体制の充実が不可欠であると認識しており、役職員のコンプライアンス意識の向上、当社連結子会社ならびに各事業の取引態様に則した内部管理体制を構築するなど、コーポレート・ガバナンス体制の強化に取り組んでまいります。

5. 主要な事業内容 (2019年4月30日現在)

事業	主要な内容
インターネットマーケティング事業	ソーシャルメディアマーケティング、コンテンツマーケティング、アフィリエイト広告、リスティング広告
アドテクノロジー事業	ディスプレイ型アドネットワーク、ASP (アフィリエイト・サービス・プロバイダー)、スマートフォン向け動画アドネットワーク

6. 主要な営業所 (2019年4月30日現在)

本社	東京都渋谷区円山町3番6号
西日本営業所	大阪府大阪市中央区心斎橋筋二丁目7番18号
九州営業所	福岡県福岡市中央区天神一丁目3番38号
株式会社フォーイト	東京都渋谷区円山町3番6号
株式会社クライド	東京都渋谷区円山町3番6号

7. 使用人の状況 (2019年4月30日現在)

(1) 企業集団の使用人の状況

使用人数	前連結会計年度末比増減
348 (20) 名	40名増 (1名増)

(注) 上記は正規使用人の状況であります。パートタイマーにつきましては年間の平均人員を () 外数で記載しております。

(2) 当社の使用人の状況

使用人数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
179 (14) 名	14名減 (2名減)	33.1歳	3年6ヶ月

(注) 上記は正規使用人の状況であります。パートタイマーにつきましては年間の平均人員を () 外数で記載しております。

8. 主要な借入先 (2019年4月30日現在)

借入先	借入額 (千円)
株式会社三井住友銀行	336,000
株式会社三菱UFJ銀行	140,000
株式会社みずほ銀行	62,500
日本生命保険相互会社	30,000

II. 会社の現況

1. 株式の状況 (2019年4月30日現在)

- | | |
|----------------|-------------|
| (1) 発行可能株式総数 | 20,000,000株 |
| (2) 発行済株式の総数 | 15,571,000株 |
| (3) 株主数 | 4,860名 |
| (4) 大株主(上位10名) | |

株主名	所有株式数(株)	持株比率(%)
フリービット株式会社	8,870,400	56.97
株式会社SBI証券	442,406	2.84
竹内康仁	315,000	2.02
松井証券株式会社	156,600	1.00
楽天証券株式会社	137,300	0.88
BNY FOR GCM CLIENT ACCOUNTS (E) BD (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	134,797	0.86
会田研二	128,700	0.82
J. P. MORGAN SECURITIES PLC FOR AND ON BEHALF OF ITS CLIENTS JPMS RE CLIENT ASSETS - SETT ACCT (常任代理人シティバンクエヌ・エイ東京支店)	93,700	0.60
INTERACTIVE BROKERS LLC (常任代理人 インタラクティブ・ブローカーズ証券株式会社)	83,300	0.53
杉本修一	74,500	0.47

(注)持株比率は自己株式(46株)を控除して計算しております。

2. 新株予約権等の状況

- (1) 当事業年度の末日において、当社役員が保有している職務執行の対価として交付された新株予約権の状況
該当事項はありません。
- (2) 当事業年度中に職務執行の対価として使用人等に交付した新株予約権の状況
該当事項はありません。
- (3) その他新株予約権等の状況
該当事項はありません。

3. 会社役員に関する事項

(1) 取締役及び監査役の状況 (2019年4月30日現在)

地 位	氏 名	担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況
代表取締役社長	友 松 功 一	(株)フォーイット 取締役 上海賦絡思广告有限公司 董事 FULLSPEED TECHNOLOGIES INC. Director (株)フルスピードリンク 取締役 (株)クライド 取締役
取 締 役	田 中 伸 明	フリービット(株) 代表取締役社長 (株)ギガブライズ 取締役会長 GoJapan Holding Co.,Ltd. 取締役 (株)フリービットEPARKヘルスケア 代表取締役社長 (株)医療情報基盤 代表取締役会長 (株)アルク 代表取締役社長
取 締 役	小宮山 雄 己	経営管理本部 本部長 上海賦絡思广告有限公司 董事 (株)フォーイット 取締役 FULLSPEED TECHNOLOGIES INC. Director (株)フルスピードリンク 監査役 (株)クライド 取締役
取 締 役	蝦 名 隆 広	デジタルマーケティング事業部 事業部長 (株)ファンサイド 代表取締役社長
取 締 役	関 根 悠	業務統括本部 本部長
取 締 役	服 部 司	FULLSPEED TECHNOLOGIES INC. President (株)クライド 代表取締役社長
取 締 役	吉 澤 竹 晴	(株)フォーイット 代表取締役社長 福藝特股份有限公司 董事長
取 締 役	野 口 航	(株)ジオロジック 代表取締役社長
取 締 役	秦 充 洋	(株)ミレニアムパートナーズ 代表取締役 (株)BDスプリントパートナーズ 代表取締役 (株)メディカルインキュベータジャパン 取締役
常 勤 監 査 役	高 原 俊 介	(株)フォーイット 監査役 (株)クライド 監査役 福藝特股份有限公司 監察人
監 査 役	田 中 秀 明	弁護士 京橋法律事務所
監 査 役	永 井 清 一	フリービット(株) 常勤社外監査役 (株)ギガブライズ 監査役

- (注) 1. 取締役 野口航氏、秦充洋氏は、社外取締役であります。
2. 監査役 高原俊介氏、田中秀明氏は、社外監査役であります。
3. 監査役 高原俊介氏、永井清一氏は金融機関における長年の経験があります。いずれも財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。田中秀明氏は、弁護士資格を有しており企業法務に精通しております。
4. 当社は野口航氏、秦充洋氏、高原俊介氏及び田中秀明氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
5. 2018年7月25日をもって、岡本真哉氏は、監査役を辞任いたしました。

(2) 取締役及び監査役の報酬等の総額

当事業年度に係る報酬等の総額

区 分	人 数	支 給 額 (千 円)
取 締 役 (うち 社 外 取 締 役)	7 名 (2 名)	32,684 (11,100)
監 査 役 (うち 社 外 監 査 役)	2 名 (2 名)	12,312 (12,312)
合 計 (うち 社 外 役 員)	9 名 (4 名)	44,996 (23,412)

- (注) 1. 取締役の報酬限度額は、2007年3月30日開催の臨時株主総会において、年額300,000千円以内（但し、使用人分給与は含まない。）と決議されております。
2. 監査役の報酬限度額は、2006年7月3日開催の臨時株主総会において、年額30,000千円以内と決議されております。
3. 当事業年度末日現在の取締役は9名（うち社外取締役は2名）、監査役は3名（うち社外監査役は2名）であります。上記の取締役及び監査役の員数と相違しておりますのは、無報酬の取締役が2名及び監査役が1名存在しているためであります。

(3) 社外役員に関する事項

① 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

当社での地位	氏名	重要な兼職の状況
取締役	野口航	㈱ジオロジック 代表取締役社長
取締役	秦充洋	㈱ミレニアムパートナーズ 代表取締役 ㈱BDスプリントパートナーズ 代表取締役 ㈱メディカルインキュベータジャパン 取締役
常勤監査役	高原俊介	㈱フォーイット 監査役 ㈱クライド 監査役 福藝特股份有限公司 監察人
監査役	田中秀明	弁護士 京橋法律事務所

- (注) 1. 株式会社フォーイット、株式会社クライド、福藝特股份有限公司は当社の子会社であります。
2. 当社と京橋法律事務所との間に重要な取引関係はありません。
3. 当社と株式会社ジオロジック、株式会社ミレニアムパートナーズ、株式会社BDスプリントパートナーズ、㈱メディカルインキュベータジャパンとの間に重要な取引関係はありません。

② 当事業年度における主な活動状況

		取締役会（全23回）		監査役会（全15回）	
		出席回数(回)	出席率(%)	出席回数(回)	出席率(%)
取締役	野口航	22	96%		
取締役	秦充洋	15	94%		
常勤監査役	高原俊介	23	100%	15	100%
監査役	田中秀明	23	100%	15	100%

(注) 上記の取締役会の回数のほか、会社法第370条及び当社定款第24条の規定に基づき、取締役会決議があったものとみなす書面決議が4回ありました。

・取締役会及び監査役会における発言状況

取締役野口航氏はアド・テクノロジーに関する豊富な知識と経験に基づき、適宜必要な発言を行っております。

取締役秦充洋氏は、新事業開発や上場企業の経営に関する豊富な知識と経験に基づき、適宜必要な発言を行っております。

常勤監査役高原俊介氏は豊富な知識と経験に基づき、取締役会において、当社の現状に則した発言や適法性の観点からの発言を行っております。また、監査役会において、当社の内部監査について適宜必要な発言を行っております。

監査役田中秀明氏は豊富な知識と経験に基づき、取締役会において、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っております。また、監査役会において、当社の内部監査について適宜必要な発言を行っております。

(4) 責任限定契約の内容の概要

野口航、秦充洋、高原俊介、田中秀明及び永井清一の各氏は、当社との間で会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の責任につき、同法第425条第1項に規定する最低責任限度額をもって、損害賠償責任の限度とする契約を締結しております。

4. 会計監査人の状況

(1) 名称 有限責任監査法人トーマツ

(2) 報酬等の額

	有限責任 監査法人トーマツ
当事業年度に係る会計監査人としての報酬等の額	25,000千円
当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	25,000千円

(注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人としての報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

2. 監査役会は会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積り算出根拠等が適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断を致しました。

(3) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の遂行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定致します。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号いずれかに該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、監査役会が会計監査人を解任致します。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告致します。

(4) 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

5. 業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況

(業務の適正を確保するための体制)

取締役の職務の遂行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は以下のとおりであります。

(1) 内部統制に関する基本理念

当社は、企業が社会的公器であることを自覚し、すべての役員及び社員が公正で高い倫理観に基づいて行動し、広く社会から信頼される経営体制の確立に努める。

(2) 当社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

- ① 取締役は、誠実かつ公正に職務を遂行し、透明性の高い経営体制の構築を図る。
- ② 毎月1回の定時取締役会を開催し、経営事項の審議及び決議を行うとともに、各取締役の職務の執行を監督する。
- ③ 取締役の職務責任を明確にするため、その任期は1年とする。
- ④ 基本行動理念を定め、企業倫理に対する意識を高め、法令及び企業の社会的責任に対する自覚を促す。
- ⑤ 「コンプライアンス規程」に準拠した行動が身につくよう継続的に指導する。
- ⑥ 「公益通報窓口取扱規程」を運用し、コンプライアンスに関する相談や不正行為等の内部通報の仕組みを適切に構築する。
- ⑦ 金融商品取引法等に準拠し、財務報告に係る内部統制の体制構築を推進する。
- ⑧ 反社会的勢力・団体には毅然として対応し、一切の関係を持たない。
- ⑨ 使用人に対し、必要な研修を定期的実施する。また、関連する法規の制定・改正、当社及び他社で重大な不祥事、事故が発生した場合等においては、速やかに必要な研修を実施する。

(3) 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- ① 情報資産を保護し、正確かつ安全に取扱うために定めた「セキュリティポリシー」を遵守し、情報セキュリティ管理体制の維持、向上に努める。
- ② 「文書管理規程」に基づき、株主総会議事録、取締役会議事録、計算書類、稟議書、契約書、その他重要書類を、関連資料とともに所定の年数保管し、管理する。取締役及び監査役は、「文書管理規程」により、常時これらの文書を閲覧できる。

- (4) 当社及び子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
- ① 「リスク管理規程」に基づき、リスク管理委員会がリスクを適切に把握し、取締役会に報告する。取締役会は前記報告を受け、リスクを管理する体制を整備する。
 - ② 法務担当部署において契約書を審査し、法務上のリスクについて監視するとともに、社内規程の整備を実施する。
 - ③ 増大する情報リスクに対応するため、「情報セキュリティ管理規程」及び関連規程に基づき、個人情報を含む情報セキュリティ全般を情報セキュリティ委員会等が監視・管理し、増大する課題を順次改善する。
 - ④ 重大な障害及び災害が発生した場合には、「事業継続計画」に基づき、対策本部を設置する等、迅速に危機管理に当たる。
- (5) 当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
- ① 「組織規程」及び「職務分掌規程」に基づき、取締役の合理的な職務分掌を定め職務執行の効率化を図るとともに、「決裁権限基準」に基づき、チェック機能を備えた上での迅速かつ効率的な意思決定を実現する。
 - ② 経営ミーティングを毎月1回以上開催し、業務の詳細な事項について討議するとともに、各種の問題を検討し、経営判断的観点から適切かつ効率的な処理を図り、重要な事項については取締役会に報告する。
 - ③ 決裁及びデータ管理の電子化を進め、業務効率向上に努める。
 - ④ 組織及び部門目標の明確な付与と評価制度を通して、経営効率向上に努める。
- (6) 企業集団における業務の適正を確保するための体制
- ① 「関係会社管理規程」に基づき、フルスピード・グループ関係会社から、その営業状況、財務状況、その他の事項についての報告を受け、コンプライアンスの確保及びリスク管理をグループ全体に浸透させ、コーポレート・ガバナンスの実行を図る。
 - ② 経営管理については、「関係会社管理規程」に従いフルスピード・グループ関係会社における重要事項の決定に関して当社への事前協議・報告を求めるほか、必要に応じ、当社の役員又は従業員をフルスピード・グループ関係会社の取締役又は監査役として派遣し、適切な監督・監査を行う。
 - ③ フルススピード・グループ関係会社は、「関係会社管理規程」に従い、業績、財政状況その他重要な事項について、当社に都度報告する。
 - ④ フルススピード・グループ関係会社に対して、「関係会社管理規程」に基づき、当社のリスク管理体制に準じた自律的なリスク管理体制を構築、運用させるとともに、適正な報告を求める。

- ⑤ フルスピード・グループ関係会社は、当社からの要求内容が、法令上の疑義その他コンプライアンス上問題があると認めた場合には関連事業部に報告するほか、その他の従業員は「公益通報窓口取扱規程」により当社の窓口に通報することができる。
- ⑥ 内部監査室による定期的な監査及び監査役の子会社聴取を実施する。
- (7) 当社の監査役の職務を補助すべき使用人及びその独立性に関する事項
 - ① 監査役から、監査役が行う特定の監査業務の補助に従事させる使用人を求められた場合には、監査役と協議の上、管理部門に在籍する使用人の中からスタッフを任命し、当該監査業務の補助に当たらせる。
 - ② 当該使用人が監査業務を補助するに当たって監査役から命令を受けた事項については、当該使用人は取締役の指揮・命令を受けない。
- (8) 当社の監査役への報告及び監査役の監査の実効性確保のための体制
 - ① 取締役及び使用人は、法令に違反する事実、あるいは会社に著しい損害を与えるおそれのある事実を発見したときには、当該事実を速やかに監査役に報告しなければならない。
 - ② 当社は、前項の監査役への報告を行った者に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を当社及びフルスピード・グループ関係会社の取締役、監査役及び従業員に周知徹底する。
 - ③ 監査役は、取締役会等の重要会議に出席して意見を述べるほか、会計監査人、取締役、内部監査室等の使用人その他の者から報告を受け、職務執行状況を監査する。
 - ④ 監査役は、内部監査室が実施する内部監査に係る年次計画について事前に説明を受け、必要があると認めるときは、追加監査を実施、業務改善策の策定等を求めることができる。
 - ⑤ 監査役は、職務を遂行するために必要と判断したときは、弁護士、会計士等の専門家による外部アドバイザーを活用することができる。
 - ⑥ 監査役の職務執行について生じる費用又は債務は、請求のあった後、速やかに処理する。
 - ⑦ 社内の事情に精通する常勤監査役と、業務の適正化に必要な知識と経験を有する社外監査役からなる監査役会を設置し、財務報告の適正化、コンプライアンス及びリスク管理の確保を図る。

(業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要)

当社では、「業務の適正を確保するための体制」に基づき、社内体制を整備するとともに、適切な運用に努めております。当事業年度における業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要は、以下のとおりであります。

(1) 取締役の職務の適正及び効率性の確保に関する事項

取締役会は、社外取締役2名を含む取締役9名で構成され、社外監査役2名を含む監査役3名も出席しております。当期においては、取締役会を23回開催し、重要な意思決定、職務執行の状況報告等について活発な意見交換が行われ、監督がなされており、実効性が確保されております。

(2) コンプライアンスに関する事項

当社グループの全社員に対し、コンプライアンス意識の向上を図るため、定期的にコンプライアンス研修及びコンプライアンスアンケートを実施し、啓蒙に努めております。また「公益通報窓口取扱規程」を整備した上で、外部に通報窓口を設定し、問題の早期発見、早期解決に取り組んでおります。

(3) リスク管理に関する事項

「リスク管理規程」に基づき経営管理本部長その他をメンバーとするリスク管理委員会を設置しており、各部門のリスク管理体制の整備を行うとともに、活動状況に関し、適宜取締役会に対して報告を行っております。

(4) 企業集団における業務の適正及び確保に関する事項

「関係会社管理規程」に基づき、各グループ関係会社内に担当者を選任し、当社担当部署に定期的に報告を行わせ、コンプライアンスの確保及びリスク管理をグループ全体に浸透させ、コーポレート・ガバナンスの実行を図っております。

(5) 監査役監査に関する事項

常勤監査役1名は、取締役会に出席し、必要に応じ適宜意見を述べております。また会計監査人及び内部監査室と定期的に情報交換を行っており、経営監視機能の強化及び向上を図っております。

6. 会社の支配に関する基本方針

決定しておりません。

7. 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、株主に対する利益還元は重要な経営課題であると認識しており、内部留保による財務体質の強化を図りつつ、業績及び財政状態の推移をみながら、配当を行うことを基本方針としております。

当期（2019年4月期）の配当につきましては、中間期配当金は無配となっており、期末配当金につきましては、1株当たり3円とし、本年7月9日を支払開始日とする予定となっております。

次期（2020年4月期）以降の配当につきましては、継続的な事業の拡大及び、財政状態の改善が進むことを見込んでいることから、業績動向、戦略的投資に必要な内部留保など総合的に判断しつつ、検討を進めてまいります。

連結貸借対照表

(2019年4月30日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	6,283,980	流 動 負 債	2,807,923
現金及び預金	3,813,159	買掛金	1,845,424
受取手形及び売掛金	2,340,282	短期借入金	9,000
前払費用	80,254	1年内返済予定の 長期借入金	191,000
未収入金	9,942	未払金	152,637
その他	40,799	未払法人税等	102,088
貸倒引当金	△458	未払消費税等	50,806
固 定 資 産	573,508	賞与引当金	87,297
有 形 固 定 資 産	158,537	その他	369,669
建物	128,669	固 定 負 債	407,820
工具器具及び備品	29,867	長期借入金	377,500
無 形 固 定 資 産	66,833	資産除去債務	30,320
ソフトウェア	14,349	負 債 合 計	3,215,744
のれん	52,431	純 資 産 の 部	
その他	52	株 主 資 本	3,622,682
投資その他の資産	348,138	資本金	898,887
投資有価証券	10,235	資本剰余金	869,887
関係会社株式	33,478	利益剰余金	1,853,952
破産更生債権等	184,471	自己株式	△44
繰延税金資産	112,058	その他の包括利益累計額	10,133
差入保証金	192,357	その他有価証券 評価差額金	59
その他	5,252	為替換算調整勘定	10,074
貸倒引当金	△189,715	非支配株主持分	8,929
資 産 合 計	6,857,489	純 資 産 合 計	3,641,745
		負 債 純 資 産 合 計	6,857,489

連結損益計算書

(2018年5月1日から
2019年4月30日まで)

(単位：千円)

科 目	金	額
売 上 高		20,566,911
売 上 原 価		16,437,415
売 上 総 利 益		4,129,495
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		2,881,578
営 業 利 益		1,247,916
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	109	
受 取 配 当 金	1	
受 取 補 償 金	13,683	
そ の 他	1,226	15,020
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	3,350	
支 払 手 数 料	12,398	
為 替 差 損	2,674	
持 分 法 に よ る 投 資 損 失	51,711	
そ の 他	2,758	72,893
経 常 利 益		1,190,043
特 別 損 失		
固 定 資 産 除 却 損	716	
減 損 損 失	192,944	193,660
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益		996,382
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	432,295	
法 人 税 等 調 整 額	△8,135	424,160
当 期 純 利 益		572,222
非 支 配 株 主 に 帰 属 す る 益		3,785
当 親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 益		568,436

連結株主資本等変動計算書

(2018年5月1日から)
(2019年4月30日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
2018年5月1日 残高	898,887	869,887	1,285,516	-	3,054,290
連結会計年度中の変動額					
親会社株主に帰属する 当期純利益			568,436		568,436
自己株式の取得				△44	△44
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	-	-	568,436	△44	568,392
2019年4月30日 残高	898,887	869,887	1,853,952	△44	3,622,682

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括利 益累計額合計		
2018年5月1日 残高	71	8,324	8,396	5,143	3,067,830
連結会計年度中の変動額					
親会社株主に帰属する 当期純利益					568,436
自己株式の取得					△44
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	△12	1,749	1,737	3,785	5,523
連結会計年度中の変動額合計	△12	1,749	1,737	3,785	573,915
2019年4月30日 残高	59	10,074	10,133	8,929	3,641,745

貸借対照表

(2019年4月30日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	3,100,744	流 動 負 債	1,461,103
現金及び預金	1,633,589	買掛金	1,010,307
受取手形	34,307	1年内返済予定の 長期借入金	191,000
売掛金	1,048,662	未払金	154,781
前払費用	40,905	未払法人税等	13,466
未収入金	325,906	預り金	7,641
その他	17,831	前受金	78,855
貸倒引当金	△458	その他	5,051
固 定 資 産	686,684	固 定 負 債	473,749
有 形 固 定 資 産	0	長期借入金	377,500
建物	0	長期預り保証金	96,249
工具器具及び備品	0	負 債 合 計	1,934,852
無 形 固 定 資 産	8,229	純 資 産 の 部	
投 資 そ の 他 の 資 産	678,454	株 主 資 本	1,852,516
投資有価証券	10,235	資本金	898,887
関係会社株式	133,332	資本剰余金	869,887
関係会社長期貸付金	130,000	資本準備金	869,887
繰延税金資産	33,401	利益剰余金	83,786
破産更生債権等	178,629	その他利益剰余金	83,786
差入保証金	189,447	事業拡充積立金	40,000
長期未収入金	496,949	繰越利益剰余金	43,786
その他	10	自 己 株 式	△44
貸倒引当金	△493,551	評価・換算差額等	59
		その他有価証券評価 差額	59
資 産 合 計	3,787,428	純 資 産 合 計	1,852,576
		負 債 純 資 産 合 計	3,787,428

損益計算書

(2018年5月1日から
2019年4月30日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額
売上高	9,378,757
売上原価	8,121,735
売上総利益	1,257,022
販売費及び一般管理費	1,446,799
営業損失	189,776
営業外収益	
受取利息	359
受取配当金	950,001
その他	1,212
営業外費用	
支払利息	3,288
支払手数料	12,330
保証料	2,331
その他	200
経常利益	743,646
特別損失	
固定資産除却損	658
減損損失	33,812
子会社株式評価損	18,850
税引前当期純利益	690,326
法人税、住民税及び事業税	△16,857
法人税等調整額	△2,314
当期純利益	709,498

株主資本等変動計算書

(2018年5月1日から)
(2019年4月30日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本							株主資本計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己株式	
		資本準備金	資本金 剰余計	その他利益剰余金				
				事業 積立 金	繰 越 剰 余	益 金		
2018年5月1日残高	898,887	869,887	869,887	40,000	△665,711	△625,711	—	1,143,063
事業年度中の変動額								
当期純利益					709,498	709,498		709,498
自己株式の取得							△44	△44
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)								
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	709,498	709,498	△44	709,453
2019年4月30日残高	898,887	869,887	869,887	40,000	43,786	83,786	△44	1,852,516

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額	評価・換算差額等計	
2018年5月1日残高	71	71	1,143,134
事業年度中の変動額			
当期純利益			709,498
自己株式の取得			△44
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)	△12	△12	△12
事業年度中の変動額合計	△12	△12	709,441
2019年4月30日残高	59	59	1,852,576

連結計算書類に係る会計監査報告

独立監査人の監査報告書

2019年6月14日

株式会社フルスピード
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 三澤幸之助 ㊞

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 五十嵐徹 ㊞

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社フルスピードの2018年5月1日から2019年4月30日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社フルスピード及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

計算書類に係る会計監査報告

独立監査人の監査報告書

2019年6月14日

株式会社フルスピード
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 公認会計士 三澤幸之助 ㊞
業務執行社員
指定有限責任社員 公認会計士 五十嵐徹 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社フルスピードの2018年5月1日から2019年4月30日までの第19期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査役会の監査報告

監 査 報 告 書

当監査役会は、2018年5月1日から2019年4月30日までの第19期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、監査計画等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、監査計画等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
 - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等との意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
 - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
 - ③ 事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第5号イの留意した事項及び同号ロの判断及び理由については、取締役会その他における審議の状況等を踏まえ、その内容について検討を加えました。
 - ④ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。
- ④ 事業報告に記載されている親会社等との取引について、当該取引をするに当たり当社の利益を害さないように留意した事項及び当該取引が当社の利益を害さないかどうかについての取締役会の判断及びその理由について、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2019年6月18日

株式会社フルスピード 監査役会

常勤監査役 高原 俊 介 ㊟
(社外監査役)

社外監査役 田 中 秀 明 ㊟

監 査 役 永 井 清 一 ㊟

以 上

株主総会参考書類

第1号議案 取締役8名選任の件

取締役田中伸明氏、友松功一氏、小宮山雄己氏、蝦名隆広氏、関根悠氏、服部司氏、吉澤竹晴氏、秦充洋氏及び野口航氏の取締役全員（9名）は、本定時株主総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、取締役8名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者 番号	ふ り が な 氏 (生 年 月 日)	略歴、当社における地位及び担当 (重 要 な 兼 職 の 状 況)		所 有 す る 株 式 の 数
1	とも まつ こう いち 友 松 功 一 (1979年2月1日生)	2001年4月	グッドウィル・グループ(株) 入社	2,623株
		2004年4月	同社 統轄部 エリアマーケティングマネージャー	
		2006年7月	(株)グッドウィル 営業企画部 部長	
		2008年11月	当社 入社	
		2009年2月	当社 統括部 部長	
		2010年11月	当社 社長室 室長	
		2011年11月	当社 業務統括本部 本部長	
		2013年7月	当社 取締役	
		2014年7月	(株)フオーイット 取締役(現任)	
		2015年2月	当社 代表取締役社長(現任)	
		2015年12月	(株)シンクス 取締役	
		2017年1月	FULLSPEED TECHNOLOGIES INC. Director(現任)	
		2017年5月	(株)クライド 代表取締役社長	
		2017年9月	(株)フルスピードリンク 取締役(現任)	
		2017年12月	上海賦絡思广告有限公司 董事(現任)	
		2018年7月	(株)クライド 取締役(現任)	
		2019年5月	(株)ジョブロード 代表取締役社長(現任)	

候補者 番号	ふ り が な 氏 (生 年 月 日) 名	略歴、当社における地位及び担当 (重 要 な 兼 職 の 状 況)		所 有 す る 当 社 株 式 の 数
2	た な か のぶ あき 田 中 伸 明 (1967年5月1日生)	2000年5月 2004年7月 2005年7月 2010年9月 2011年5月 2011年6月 2012年6月 2012年7月 2012年8月 2015年2月 2015年3月 2015年5月 2015年11月 2016年9月 2017年8月 2018年7月 2018年9月	(株)フリービット・ドットコム (現：フリービット(株)) 設立 代表取締役副社長・最高業務責任者 同社 代表取締役社長・最高業務責任者 同社 代表取締役副社長・最高財務責任者 当社 取締役会長 フリービット(株) 取締役副社長 当社 代表取締役社長 (株)フォーイット 取締役 (株)ギガプライズ 取締役会長(現任) (株)フォーイット 代表取締役社長 上海賦絡思广告有限公司 董事長 当社 取締役会長 フリービット(株) 代表取締役社長(現任) (株)ドリーム・トレイン・インターネット 代表取締役社長 (株)フォーイット 取締役会長 (株)ゴージャパン 取締役 (株)フリービットEPARKヘルスケア 代表取締役社長(現任) (株)医療情報基盤 代表取締役会長 Gojapan Holdengs Co.,Ltd 取締役(現任) 当社 取締役 (現任) (株)アルク 代表取締役社長 (現任)	13,858株
3	よ し ぎ わ た け はる 吉 澤 竹 晴 (1979年6月9日生)	2007年1月 2013年7月 2015年5月 2018年5月 2018年7月	当社 入社 (株)フォーイット 取締役 (株)フォーイット 代表取締役(現任) 福藝特股份有限公司 董事長(現任) 当社取締役(現任) (株)クライド 取締役(現任)	530株

候補者 番号	ふ り が な 氏 (生 年 月 日)	略歴、当社における地位及び担当 (重 要 な 兼 職 の 状 況)		所有する 当社の 株式数
4	はつ どり つかさ 服 部 司 (1983年12月5日生)	2008年3月 2012年7月 2013年1月 2014年5月 2015年5月 2017年5月 2017年10月 2017年7月 2018年4月 2018年7月 2019年5月	サイバーエージェント㈱ 入社 当社 入社 ディスプレイネットワーク部 部長 当社 ディスプレイ広告部 部長 当社 アドストラテジー事業部 副事業部長 当社 アドテクノロジー事業部 事業部長 当社 技術戦略本部 本部長 ㈱クライド取締役 当社 取締役(現任) FULLSPEED TECHNOLOGIES INC. President(現任) ㈱クライド 代表取締役社長(現任) ㈱ジョブロード 取締役(現任)	4,804株
5	こ み やま ゆう き 小 宮 山 雄 己 (1978年8月23日生)	2011年5月 2013年5月 2015年1月 2015年5月 2015年7月 2015年12月 2017年1月 2017年5月 2017年7月 2017年9月	㈱廣済堂 入社 当社 入社 経営戦略室室長 兼 法務総務部 部長 上海賦絡思广告有限公司 董事(現任) 当社 経営管理本部(現グループ経営管理本部) 本部長(現任) 当社 取締役(現任) ㈱シンクス 監査役 FULLSPEED TECHNOLOGIES INC. Director(現任) ㈱フォーイット 取締役(現任) ㈱クライド 取締役(現任) ㈱フルスピードリンク 監査役(現任)	699株
6	よね むら かづ き 米 村 一 精 (1976年3月23日生)	1999年4月 2006年2月 2011年7月 2014年3月 2015年11月 2017年8月 2018年5月 2019年5月 2019年6月	ビクターエンタテインメント㈱ 入社 ㈱ディー・エヌ・エー 入社 ㈱ガイアックス 入社 当社 入社 当社 SEOコンサルティング事業部 ソーシャルメディアコンサルティング部 部長 当社 コンテンツマーケティング事業部 事業部長 当社 エンゲージメントマーケティング事業部 事業部長 当社 マーケティングカンパニー長(現任) 株式会社シンクス 取締役(現任)	249株

候補者番号	ふりがな氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位及び担当 (重要な兼職の状況)		所有する 当社の 株式数
7	のぐち わたる 野口航 (1981年1月12日生)	2003年4月 2005年3月 2010年10月 2011年10月 2014年11月 2015年7月	NTTコミュニケーションズ(株) 入社 (株)サイバーエージェント 入社 (株)マイクロアド シニアフェロー 同社 京都研究所 所長 (株)ジオロジック 代表取締役社長(現任) 当社 社外取締役(現任)	5,873株
8	はた みつひろ 秦 充 洋 (1967年11月14日生)	1991年4月 1996年6月 1996年10月 2002年7月 2006年3月 2010年6月 2012年6月 2017年7月 2018年5月 2018年7月	株ポストンコンサルティング・グループ 入社 医療法人社団健育会 入社 株ケアネット 共同創業者兼取締役副社長 株ポストンコンサルティング・グループ 入社 株ミレニアムパートナーズ 代表取締役(現任) (株)ケアネット 取締役 (株)ケアネット 監査役 株BDスプリントパートナーズ 代表取締役(現任) 株メディカルインキュベータジャパン 取締役(現任) 当社社外取締役(現任)	850株

(注) 1. 取締役候補者田中伸明氏は、当社の親会社であり特定関係事業者であるフリービット株式会社の代表取締役社長であり、同社は、当社との間で2010年6月28日付で資本業務提携契約を締結し、当該契約に基づく提携関係にあるほか、営業上の取引関係があります。なお、その他の取締役候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。

2. 取締役候補者田中伸明氏の、当社の親会社であり特定関係事業者であるフリービット株式会社及び同社の子会社である株式会社ドリーム・トレイン・インターネット、株式会社ギガプライズ、株式会社フリービットEPARKヘルスケア及び株式会社医療情報基盤での過去5年間並びに現在の地位及び担当は、上記「略歴、当社における地位及び担当（重要な兼職の状況）」欄に記載のとおりであります。
3. 野口航氏及び秦充洋氏の両氏は、社外取締役候補者であります。
4. 野口航氏を社外取締役候補者とした理由は以下のとおりであります。

同氏は、アド・テクノロジー、特に弊社グループが注力する株式会社クライドが展開するDSPに関する豊富な見識及びビジネス経験・実績を有していることから、社外取締役として期待される役割を十分に発揮いただけると考えられますので、社外取締役として選任をお願いするものであります。
5. 秦充洋氏を社外取締役候補者とした理由は以下のとおりであります。

同氏は新事業開発に関する豊富な見識・経験を有しており、また、上場企業である株式会社ケアネットの共同創始者であることから、上場会社の経営に関する豊富な実績及び見識を有しているため、当社の経営・企業価値を理解し、実践的かつ客観的に当社への助言や業務執行に対する適切な監督を期待し、社外取締役の選任をお願いするものであります。
6. 野口航氏及び秦充洋氏は、現在、当社の社外取締役であります。それぞれの社外取締役としての在任期間は、本総会終結の時をもって野口航氏が4年、秦充洋氏が1年となります。
7. 当社は野口航氏及び秦充洋氏との間で会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第425条第1項に定める最低責任限度額を限度として同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。野口航氏及び秦充洋氏の再任が承認された場合は両氏との当該契約を継続する予定であります。
8. 当社は、野口航氏及び秦充洋氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。両氏が再任された場合は、当社は引き続き同氏を独立役員とする予定であります。

第2号議案 補欠監査役1名選任の件

法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、補欠監査役1名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案に関しましては、監査役会の同意を得ております。

補欠の監査役候補者は、次のとおりであります。

ふりがな 氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位 (重要な兼職の状況)		所有する 株式の 株数
とみ 富 田 純 司 (1948年3月24日生)	1975年4月	最高裁判所司法研修所 入所	一株
	1977年4月	弁護士 長野法律事務所 入所	
	2011年6月	DIC(株) 社外監査役	
	2014年3月	(株)ムゲンエステート 社外監査役(現任)	
	2015年6月	住友パークライト(株) 社外監査役	

- (注) 1. 候補者と当社との間に特別の利害関係はありません。
2. 富田純司氏は、補欠の社外監査役候補者であります。なお、同氏が監査役に就任の際は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として、同取引所に届け出る予定であります。
3. 補欠の社外監査役候補者とした理由
富田純司氏につきましては、長年弁護士として培われた高度な法律知識を、当社の経営に対する監査体制に活かしていただけることを期待し、社外監査役候補者としております。
4. 社外監査役候補者との責任限定契約について
富田純司氏が監査役に就任した場合には、会社法第427条第1項の規定に基づき、会社法第425条第1項に規定する最低責任限度額を上限とする責任限定契約を締結する予定であります。

以上

メ モ

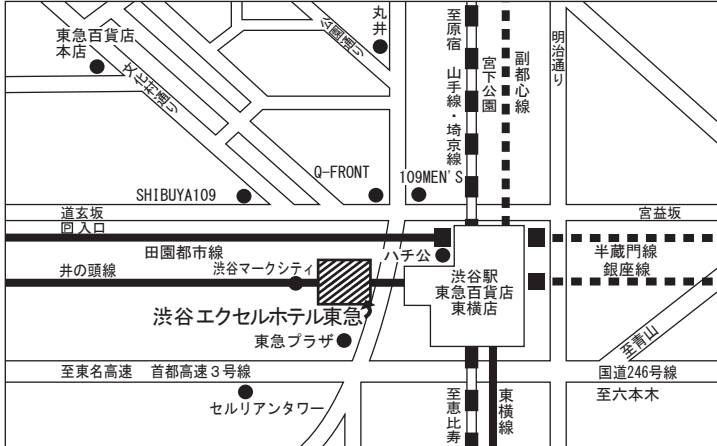
A series of 20 horizontal dashed lines for writing.

メ モ

A series of 20 horizontal dashed lines for writing.

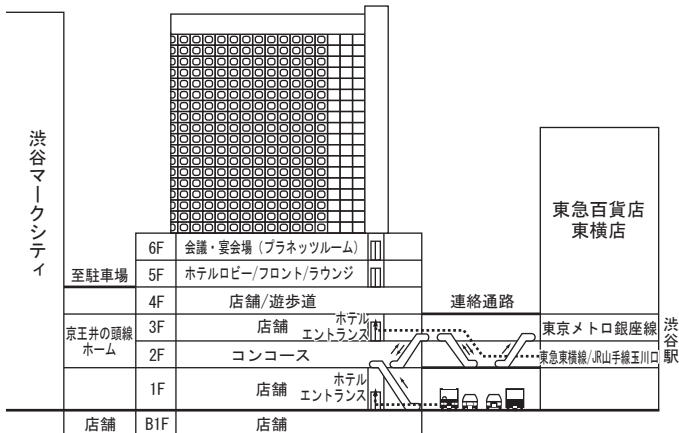
株主総会会場ご案内図

会場 東京都渋谷区道玄坂一丁目12番2号 渋谷マークシティ内
 渋谷エクセルホテル東急6階 プラネッツルーム
 連絡先：03-5457-0109（ホテル代表番号）



交通のご案内

- JR（山手線・埼京線）・東京メトロ（銀座線・半蔵門線・副都心線）・東急（東横線・田園都市線）「渋谷駅」直結
- 京王（井の頭線）「渋谷駅」上部



- 1階又は3階からエクセルホテル専用エレベーターにて6階にお越しください。（9時までは会場フロアに入れません。）